

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

産業観光資源を活用した地域づくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県

3 地域再生計画の区域

名古屋市、瀬戸市、半田市、豊田市、常滑市及び愛知県愛知郡長久手町の
全域

4 地域再生計画の目標

(1) 地域の特性

愛知県全体

愛知県地域は、工作機械、自動車、航空宇宙産業などのハイテク産業から、繊維、陶磁器などの伝統産業まで、幅広い産業集積があり、古くから「モノづくり」の中心地として広く知られている。とくに製造業では、昭和52年から27年連続日本一の出荷額を誇り、多くの県民が「モノづくり県」であることに少なからず誇りを持っているとともに、県内には、産業の発展過程で生まれた歴史的文化的価値の高い産業文化財が数多く点在している。こうした地域特性から、名古屋商工会議所を中心に、国土交通省中部運輸局・中部地方整備局、経済産業省中部経済産業局、社団法人日本観光協会中部支部、社団法人中部経済連合会、愛知県、名古屋市等が一体となって産業観光の振興に向けた取り組みを展開してきている。

(産業観光のこれまでの取り組み)

- ・平成 7年度 パンフレット「産業技術文化圏あいち」の作成
- ・平成 8年度 「産業観光推進懇談会」(AMIC)の発足
- ・平成 9年度 産業観光スタンプラリーの開始
- ・平成13年度 「産業観光サミット in 愛知・名古屋」の開催
- ・平成14年度 「産業観光推進委員会」の設置
- ・平成15年度 全国都市再生モデル調査「産業観光資源を活用したまちづくり調査」の実施
- ・平成16年度 旅フェア2004における産業観光の推進
「全国都市再生 イン 愛知」の開催

国土施策創発調査「東海観光交流圏形成推進モデル調査」の実施

・平成17年度 「産業観光国際フォーラム」の開催

計画区域の特性

計画区域とした各市町では、地域特性や地域の産業観光資源を活かした「産業観光まちづくり」を展開している。

a. 名古屋市 名古屋大都市圏の中心拠点都市

江戸時代は尾張藩の城下町として栄え、現在は、名古屋大都市圏の中心拠点都市である。歴史的施設、文化施設、レジャー施設、ショッピング施設などが集積しており、観光面においても中心的存在である。宿泊施設も充実しているため、多くの観光客が名古屋市に宿泊している。

西区の「ものづくり文化の道」(産業技術記念館、ノリタケの森のほか伝統工芸の中心地)、中区の久屋大通公園地区(名古屋テレビ塔など)、緑区の有松・桶狭間地区(絞り産業、古戦場)では、地域の行政、事業者、住民が中心になって、産業観光まちづくりに取り組んでおり、西区の「ものづくり文化の道」推進協議会は、平成17年度全国都市再生モデル調査として「ものづくり文化の道」形成推進調査を実施している。

b. 瀬戸市 やきもののまち

1300年余りの歴史と伝統が息づくやきもののまちで、日本六古窯のひとつに数えられる。やきものの資源を活かした産業観光まちづくりとして「まるっと・ミュージアム構想」を行政と窯元等の地元住民が一体となって推進しており、本年2月には市民活動の拠点となる「パルティセト」が、3月には産業観光の新たな中核施設として、「瀬戸蔵」がオープンしている。

c. 半田市 蔵のまち

童話作家 新美南吉の出身地であり、食品産業ミツカンの本拠地でもある。新美南吉記念館、博物館「酢の里」、酒の文化館のほか、半田運河沿いに並ぶミツカンの醸造蔵の美しい黒板壁と甍の波や、今は廃工場となっている旧カプトビール工場の赤煉瓦の建物を利活用して行政、事業者、住民組織などが一体となって産業観光まちづくりに取り組んでいる。

d. 豊田市 自動車のまち

1938年にトヨタ自動車工業の工場を誘致して以来、自動車産業を核とした内陸工業都市に発展した。近年、第二東名高速道路や東海環状自動車道などの高速交通基盤の整備が進み、既存の東名高速道路等と合わせて国土中央の一大結節点が形成されたことから、人・モノ・情報の活発な交流が期待されている。

本年4月に周辺市町村(足助町など)を合併し、トヨタ工場などの産業観光資源に加えて、香嵐渓などの集客力のある自然資源も加わったことから、それ

らを総合的に活用した観光振興に取り組んでいる。

e. 常滑市 新空港とやきもののまち

約 1000 年の歴史を持つ常滑焼の産地として知られ、日本六古窯の中でも最古で最大とされる。市西部は伊勢湾に面した平坦地で水産業・商工業地域、東部は丘陵地で農畜産業地域となっている。中部国際空港セントレアの建設地で、空港対岸部に臨空型産業や地域産業を誘致するほか、常滑駅周辺の中心市街地の再整備を進めている。

中部国際空港が本年 2 月 17 日に開港したことを契機に、行政、事業者、NPO 等が中心になって産業観光まちづくりを展開するとともに、国土交通省の「観光活性化標識ガイドライン」のパイロットケースの対象地に選定され、観光案内標識整備計画を策定する予定である。

f. 長久手町 都市化が進む歴史のまち

「小牧・長久手の戦い」ゆかりの歴史の町であるが、名古屋市のベッドタウンとして土地区画整理事業による宅地開発を中心に都市化が進行しており、大学や研究機関等の進出・集積が進みつつある。2005 年日本国際博覧会（愛知万博）開催期間中は、そのメイン会場であったことから、新交通システム東部丘陵線や名古屋瀬戸道路等の交通インフラが整備され、トヨタ博物館等の域内の観光施設の利用者の周遊性の向上と、遊休農地を活用する田園バレー事業を推進している。

（2）愛知県における観光振興の課題

愛知県の観光の現状と課題

ア 国外からの観光

平成16年の訪日外国人旅行者数は614万人であり、都道府県別の訪問率では、愛知は6位で平成15年では9.7%となっており、他県に比べ多くの外国人（年間約60万人。国別で愛知県の比率が高いのは韓国、台湾、中国。）が来訪していると考えられる。

海外ガイドブックにおける記述からみると、愛知県は「工業都市、交通の要衝で快適で便利」である反面「魅力的ではなく観光都市でない」との紹介がなされていることから、ビジネスでの来訪者が多いことが推測される。

こうした中、愛知万博では、1,500万人の集客予想をはるかに上回る2,200万人の観光客が来場し、そのうち4.6%に当たる約105万人を外国人観光客と推計しているが、ポスト万博における国際観光を更に推進するためには、外国人観光客に訴求力のある観光資源（例えば産業観光資源）を磨き、海外にPRしていくとともに、県内の外国人観光客受入体制を整備していくことが今後の課題である。

イ 国内観光

愛知県内の観光レクリエーション施設利用者総数は1億1,771万人(H15)であるが、全体の4分の3を県内の居住者が占めており、また県外からの来訪者のうち、岐阜、静岡、三重の近県が過半数を占め、愛知県の観光は「身近なレクリエーション等の最寄型」となっている。

観光振興による地域の活性化を図るためには、宿泊を伴う県外、特に近隣県以外の地域からの入れ込みを伸ばすことが必要不可欠であり、地域の観光資源を磨き、全国規模の観光PRを展開していくことが喫緊の課題になっている。

産業観光への期待

産業観光の認知度は、平成12年度の51.4%から平成16年度には72.9%と高まってきているものの、産業観光推進懇談会(AMIC)に加盟している県内21施設〔名古屋市科学館(64.3万人)、でんきの科学館(55.5万人)、ノリタケの森(50.0万人)、名古屋市博物館(49.9万人)、明治村(36.6万人)など〕の入館者数は、ここ数年伸び悩んでいる。

(平成17年度については、愛知万博との連携により施設によっては入館者を増加させているところもある。)

平成14年度に愛知県が実施した「産業観光あないびと事業」による調査結果(県内1,865ヶ所の訪問による小中学校等各種団体の産業観光に対する意向調査)によれば、小学校、その他の学校等での再訪希望度が高く、また旅行代理店・ホテル・旅館(238ヶ所)に対する調査結果では、「産業観光施設が観光ポイントになる」との回答が45.8%と高く、いずれも産業観光施設の潜在的な集客力の高さを表している。

こうしたことから、国内的には産業観光施設をPRの中心に据えて、首都圏・近畿圏等の小中学校等の学校、商工会議所・商工会等の団体を対象に、修学旅行等の団体旅行の誘致に積極的に取り組んでいくことにより、県外からの観光客数の増加を図ることが期待できる。

全国都市再生モデル調査「産業観光資源を活用したまちづくり調査」の実施

このような「愛知県観光の現状と課題」、「産業観光への期待」を踏まえ、愛知県地域に多数集積する産業観光資源等の外国人観光客への訴求力を把握することにより、産業観光の推進が外国人観光客誘致にとって有効であることを検証するとともに、外国人観光客の効果的な受入方策を考案するため、全国都市再生モデル調査として、名古屋市、豊田市、瀬戸市、長久手町及び常滑市を対象として「産業観光資源を活用したまちづくり調査」を実施した。

この調査の結果、外国人の産業観光への関心は高く、全体としては伝統工芸への関心が高い。産業観光の内容としては、製造工程の見学に関心が高く、国籍別では、中国人・韓国人は、自動車・機械、欧米人は醸造・食品への関心が

高いことから、愛知県地域に多数集積する産業観光資源が外国人観光客への訴求力があることが検証された。

これにより、産業発展のストーリー性を持ち、道路・公共交通機関の利用促進を目的とした新たな観光モデルコース「産業観光の道」を企画するとともに、外国人が一人で安心してそれを楽しむことができる環境整備方策が提案された。

従前から実施してきている産業観光振興のための取組を継続発展させるとともに、この調査結果に示された方策をどのように実現していくかが課題となっている。

万博後の地域活性化～産業観光まちづくり支援

本年、中部国際空港の開港、愛知万博の開催という2大プロジェクトが実現したが、この2大プロジェクトの成果等を生かし、この地域の交流拠点性を向上させ、地域の推進力を継続発展させていくことが今後の課題となる。

万博後の地域の活性化を図るための指針として平成16年3月に「国際交流大都市圏構想」を策定しており、また、県内産業の国際競争力強化のための施策の方向性や具体的なプロジェクトを盛り込んだ指針として、「愛知県産業創造計画」を本年1月に策定しており、その双方の中に愛知県の地域特性である「モノづくり」をテーマとして活かす「産業観光」が重要な柱として位置づけられており、国際交流拠点性を高め、産業の国際競争力強化に資する有力な方策として「産業観光」に期待が寄せられている。

産業観光による国内外からの集客交流の拡大を図っていくためには、県内各地域において行政、事業者、NPO等が一体となって、産業観光資源を活かした地域づくりに取り組み、発展させていく必要がある。

そのため、従来の観光宣伝に重心を置いた観光施策から、観光まちづくりにも目を向けた施策へと県の観光施策の幅を広げていくとともに、本計画において計画区域とした名古屋市、瀬戸市、半田市、豊田市、常滑市、長久手町でのモデル的な取組みをもとに、産業観光まちづくり支援のより良い施策を考案し、県内全域に広げていくことが必要となる。

(3) 目標

この計画に基づき展開する各種事業を有機的に連携させ、産業観光を主要なテーマに据えながら、愛知県内の観光地・観光施設（一般観光施設を含む。）を訪れる観光客数の増加、とくに県外、海外からの増加を図ることにより、地域経済の活性化を図る。

平成22年度の観光客入込数

愛知県 1億2千5百万人

計画区域 3千7百87万人(いずれも2003年の実績から6%増)

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

愛知県内（特に計画区域）に豊富に存在し、「モノづくり」という地域特性を端的に表現する産業観光資源を集客資源として活用する「産業観光まちづくり」が、地元の行政、まちづくりNPO、商工会、観光関係事業者等により展開されている。

こうした活動は、地域全体の魅力を高め、交流人口の拡大・地域経済の活性化に繋がるものと期待されており、これを伸ばすための事業展開が喫緊の課題になっている。

具体的には、各地域における観光に関係する団体のヨコの連携を強めるため、NPOを中心とした「みんなで地域づくりを考える」ためのワークショップ等を行い、そこから出される提案の具体化を図っていくこととする。併せて、旧プログラムの支援措置に基づく地域再生事業を展開していく。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業 該当なし

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 基本方針に基づく支援措置

（支援措置の名称）

地域再生に資するNPO等の活動支援（C2001）

（支援措置の対象とする事業の内容）

愛知万博開催期間に大勢の市民がボランティア活動に参画していた瀬戸市・長久手町を取り上げ、まちづくりのノウハウを有するNPOが地元組織（大学コンソーシアムせと、長久手町観光交流推進会議など）と協力して「まち歩きワークショップ」を企画開催する。ボランティア参加市民（おもてなしボランティア等）、観光関係事業者などに参加を呼びかけ、愛知万博の成果を継承発展させる観点から、地域資源（産業観光資源等）を再発見・再確認し、それらをモデルコース化して観光情報として提供するHPを製作するとともに、今後のまちづくり方策について検討・考案し実施できる体制づくりを行う。

（1）まち歩きワークショップ

NPOがこれまでに蓄積してきた高齢者・障害者のニーズや彼らに

配慮したまちづくりのノウハウと人的ネットワークをベースに、地元市町の協力を得て「まち歩きワークショップ」を企画開催する。

ア 瀬戸市の課題と方向性

瀬戸市では愛知万博開幕以前からまち全体を博物館に見立てて交流盛んなまちづくりを目指す「まるっと・ミュージアム構想」を推進してきており、万博後はその一層の発展が課題になる。

このことを念頭において、瀬戸市周辺の大学で構成される「大学コンソーシアムせと」(名古屋学院大、中部大、愛知工業大、金城学院大、南山大、名古屋産業大)と連携し、具体的な振興策を検討し、具体化させる。

イ 長久手町の課題と方向性

長久手町には、「小牧・長久手の戦い」ゆかりの古戦場公園のほか、代表的な産業観光施設であるトヨタ博物館や長久手温泉「ござらっせ」など多様な観光資源に恵まれているが、各施設の利用者数増加のため、訪れる観光客の回遊性を向上させることが課題となっている。

こうした課題解決のため、長久手町観光交流推進会議を中心に、域内の住民、企業、大学等と連携し、具体的な振興策を検討し、具体化させる。

ウ 事業内容

両地区において、各3回ワークショップを開催する。

まちづくり、人づくり、プロモーションなど市民が関心を持つテーマの設定、講師の選定を大学等の協力を得て行い、 を骨子として事業全体の企画を行う。

「みんなでまちづくりを考える」を基本に、幅広く市民に参加を呼びかけ、長年参加してきたボランティア活動や「一市町村一国防レンドシップ事業」、EXPOエコマネー活動等の万博関連のボランティア活動を通じて得た経験をもとに再発見した魅力ある観光資源を抽出する。

まち歩きを行い、 で抽出した資源の魅力を再確認する。(とくに無名観光資源に留意する。)あわせて、参加者が自ら気付いて実施したいと考える具体的な観光まちづくり活動、例えばまちのPRを行う「もてなし宣伝隊」、商店街が観光パンフレットを配布し、語り部も務める「まちかど観光案内所」などを考案・検討し、そのテスト的な活動を実施する。

「一市町村一國フレンドシップ事業」

県内の市町村を万博の公式参加国のホームシティ、ホームタウンと位置づけ、地域を挙げたホスピタリティ溢れる公式参加国の受入や博覧会の盛上げ、更には草の根の交流を含めて幅広く国際交流の推進を図るもの。

EXPOエコマナー活動

愛・地球博の会場内で行うエコ活動（環境に優しい活動）には、万博エコツアーなどの環境プログラムへの参加、ノーレジ袋の実践、エコ商品の購入などがあり、EXPOエコマナーセンターでは、エコ活動でたまったポイントの交換や植林活動への寄付、エコマナーについての情報発信を行っていた。こうした活動が万博後においても継承される方向にある。

（２）観光情報HPの製作

ワークショップの討論の結果、再発見・再確認された域内の観光資源をモデルコース化して「愛知のまち発見観光情報」HPの「テスト版」を製作するとともに、一般観光客からの依頼により観光ボランティアガイドによる案内の手配ができるような体制づくりを構築する。「愛知のまち発見観光情報」HPは、まち歩きワークショップ開催以降も地元住民や来訪者からの情報を得て常に更新される情報収集・発信の双方向型HPを目指す。

5 - 3 - 2 「旧プログラム」に基づく支援措置による活動

本計画において、計画区域とした名古屋市、瀬戸市、半田市、豊田市、常滑市、愛知郡長久手町における産業観光まちづくりのモデル的な取組を推進するため、次のとおり旧プログラムに基づく支援措置による地域再生活動を展開する。

（１）地域再生推進のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置

平成16年12月に「特定地域プロジェクトチーム」として愛知産業観光プロジェクトチームを立ち上げ、国、県、市町、経済団体、観光振興団体等が一体となって産業観光の振興に取り組んでいる。

（２）「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

観光カリスマ塾等の観光人材育成事業は、県内の観光関係従事者等の質的向上に不可欠であり、今後も彼らの事業への参加を奨励していく。

（３）観光推奨バス路線指定制度の活用

名古屋市では、この制度を活用して、産業技術記念館、ノリタケの森、名古屋城、徳川園などの観光資源を結ぶ「ものづくりと文化の

ルートバス」を愛知万博開催期間中運行していたほか、他の計画区域の市町での活用も期待される。

(4) まちづくり交付金の創設

計画区域の各市町においては、まちづくり交付金を活用した産業観光まちづくりを推進している。

(5) 案内標識に関するガイドラインの策定

平成17年6月に観光活性化標識ガイドラインが策定されたことから、それに沿った観光案内標識の整備を今後県内全域において推進していく。また常滑市においては、平成17年度に観光活性化標識ガイドラインのパイロットケースの対象地区に選定され、ガイドラインに沿った案内標識整備計画を策定する予定。

6 計画期間

平成17年度から平成22年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

愛知県観光レクリエーション利用者統計の結果をもとに地域の行政、経済団体、観光振興団体、NPO等で構成する特定地域プロジェクトチーム「産業観光プロジェクトチーム」で事業の達成状況等を評価する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし

添付書類一覧

- ・ 地域再生計画の区域に含まれる行政区画を表示した図面
- ・ 産業観光資源を活用した地域づくり計画の工程表
- ・ 工程表の内容を説明した文書
- ・ 産業観光資源を活用した地域づくり計画のイメージ図